

第102号
2021年12月

風

発行

群馬県生協連女性協議会

群馬県前橋市大手町3-19-3

「風」はホームページでもご覧いただけます

<https://gunma-ccu.jp/>

Eメール: post@gunma-ccu.jp

10月13日(水) 3年ぶりに女性協視察研修会を開催 中之条ガーデンズに女性活躍の様子をたずねました



森山さん（左手前）の案内で、ガーデン内を見学

女性協視察研修が3年ぶりに行われ、10月13日、中之条ガーデンズへ8生協22人が参加しました。現地集合現地解散であいにくの雨でしたが、正午まで約2時間の散策を楽しみました。

10時に園内の会議室に集合、田中会長の挨拶の後、園の中沢さんから、観光園化を目指して女性初の樹木医塚本こなみ氏をはじめとする著名な園芸家を招いて大規模な改修工事をし、今年の4月に有

料オープンしたこと、塚本氏と職場をともにし、ご夫妻で中之条町に移住された園芸家の森山さんからは、草花を自然のままに育てるナチュラルスティックなどの説明を聞きました。

記念撮影の後、森山さんの案内で、また中沢さんも同行され、様々な宿根草が植えられているスパイラルガーデン、枯れた草花もそのまま展示しているナチュラルガーデンや、400種1,000本のバラが植えられているというローズガーデンを散策。一行は草花や香りたつバラを楽しみました。

参加者からは、「森山さんにご案内していただけたとは思っていませんでしたので、驚きましたし、嬉しかったです」「自然を生かしたガーデン作りがとても良かったです。雨で残念でしたがまた訪れたいと思います」「庭づくりが自然とともに在り感動！！また、主旨を説明頂けたことで見方が変わりとても良かったです」「園内案内を森山さんがいろいろ説明しながら歩いてくださり、花・木を見ていると、ちがう景色が見えてきました」「雨でも良かった、いや雨の日で良かった。と思わせられる散策でした」「また訪れてみたいと思いました。晴れの日に！」などの感想が寄せられました。

副会長 藤原 京子（利根保健生協）



シャッターを切る時だけマスクを外して記念撮影

10月21日(木)

会員生協組合員・役職員など186名が参加

第53回群馬県生協大会をオンラインで開催

第53回群馬県生協大会実行委員会（岩崎知恵実行委員長）は、10月21日（木）オンラインで生協大会を開催しました。大会には会員生協の組合員・役職員など186名が参加し、社会学者・東京大学名誉教授 上野千鶴子さんの講演、会員3生協（コープぐんま、パルシステム群馬、群馬中央医療生協）の活動報告を聞きました。



オンラインによる生協大会のようす

コープぐんま理事の岩崎知恵さん（女性協議会運営委員）が実行委員長に選出され、女性協議会からは実行委員として、田中利恵子会長（コープぐんま）、中野真由里運営委員（群馬中央医療生協）が参加し、大会運営に協力しました。

第53回群馬県生協大会・上野さん記念講演を聞いた運営委員の感想から

上野さんのお話は忖度がなくとても楽しかったです。

ジェンダー平等という点では女が男の前に出ることを嫌がる「家庭内抵抗勢力」（夫と親たち）が女性の社会進出を遅らせている要因なのだと改めて実感しました。

男女問わず暮らしやすい世の中になってほしいですね。

会長 田中 利恵子（コープぐんま）

30年来の気になる人、上野千鶴子氏の講演を初めて聴くことができ、主催者にもおもねることなく本音を言う姿勢に感心しました。

上野氏の言動は常にセンセーションを巻き起こし、最近では2019年東京大学入学式の祝辞が有名ですが、講演ではそのことにも触れ、真意はノープレッス・オブリージュではなく、誰もが弱者になり得ること、自分の弱さを認め支えあって生きてほしいとのことでした。

講演は統計を示しながら日本の社会学を広く論じており、第一人者の話を聴くことができたのはこの上ないよろこびでした。

医師の父と専業主婦の耐える母という家庭環境が、フェミニスト、ジェンダー論の原点であると略歴に記されていますが、戦後の自由主義・女性改革開放運動も後押ししたのだと思います。「好奇心と不公正への怒りで突き進んできた」との言葉通り、女性

学のパイオニアとしていつまでも希望の星であってほしいと願っています。

副会長 藤原 京子（利根保健生協）

「コロナ禍とジェンダー ～今私たちができること～」をテーマにした東京大学教授の上野千鶴子氏の基調講演は、男女の垣根を越えて考えさせられる時間でした。コロナ禍で私たちを取り巻く生活環境は大きく変わりつつあります。特に女性の雇用への影響が大きく、継続して働くことが困難な人が多くいます。生協は昨今、食の生協から福祉の生協とも呼ばれるようになりつつあります。私たち生協も他団体と連携をしながら解決していける道を探っていければと思います。

運営委員 田代 裕子（パルシステム群馬）

【実行委員会に参加して】

私は昨年も生協大会の実行委員でしたが、コロナ禍により中止となり大変念でした。

今年は警戒度により全てオンラインとはなりましたが、開催することができました。全体で1時間30分という、コロナ以前とは比べられない程短い時間ではありましたが、『くらしや健康に関わる諸課題について学び、生協間の交流を深める』という目的は達せられたと思います。

でも来年は、短い時間でも会場で皆さんと直接会って交流したいと心から思いました。

運営委員 中野 真由里（群馬中央医療生協）

記念講演講師に 社会学者・東京大学名誉教授 上野 千鶴子さん

『コロナ禍とジェンダー 私たちができること』



講師 上野さん

生協大会第一部記念講演では上野千鶴子さんがリモート先から出演し、『コロナ禍とジェンダー 私たちができること』をテーマにお話しを進めました。

上野さんは、コロナ禍（非常時）では、平時の矛盾が拡大・増幅してあらわれる、と指摘し、昨年11月に出版された内閣府『コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会』緊急提言のデータをもとに、女性の雇用が減少したこと、DV相談件数が増加していること、若い女性の自殺が増えたこと、深刻化する母子世帯の暮らし、一斉休校による女性への影響などを報告しました。

続いて働く女性は多いが非正規比率が高い日本の状況に触れ、ジェンダー平等法制化がすすめられる一方、労働法制による労働の柔軟化が同時進行してきた、と解説しました。そうした状況の中、加害者にも被害者にも、そして傍観者にもならないために、#わきまえない女、#めんどくさい女、#うるさい女になることが大事、と強調されました。

上野さんはまた、福祉事業に参加する生協が増えていることに期待を述べ、生協にできることとして、ライフラインとしての食、成年後見、介護保険外サービスなど市民的公助のしくみづくりを進めてほしいとエールを送りました。

講演のしめくくりには、女性の地位向上の課題と政治参加に関連して、「権利の上に眠るな」との市川房枝さんの言葉が紹介されました。

第二部は会員生協3生協の活動報告があり、コープぐんまからは橋爪寛子さん、パルシステム群馬からは吉田澄子さん、群馬中央医療生協からは西野竜也さんがそれぞれSDGsの取り組み、行政や他団体との連携などについて報告しました。

お知らせ 2022年2月28日（月）10:00～12:15

日本生協連中央地連 男女共同参画学習会がZOOMで開催されます
学習会講師に津田塾大学客員教授・日本生協連有識者理事 村木 厚子さん

- ◆対象：テーマに関心のある組合員、役職員の皆さま
- ◆テーマ：「コロナ禍による社会の変化と課題をジェンダーの視点で考える」（仮）
- ◆開催主旨：男女共同参画社会において、コロナ禍が及ぼした社会の変化を整理し、ジェンダーの視点から見たコロナ後の新たな社会での課題について学びます。また、その課題について生協の事業や活動がどのような役割を發揮していけるかを考える機会とします。
- ◆企画概要：学習講演「コロナ禍による社会の変化と課題をジェンダーの視点で考える」（仮）
・講師 津田塾大学 客員教授 村木 厚子さん（日本生協連 有識者理事）
事前質問に対する講師からの回答
意見交流（放課後タイム）
- ◆お申込みは、コープぐんま、パルシステム群馬、生活クラブ生協、よつ葉生協、学校生協、県庁生協の方は、各生協の男女共同参画ご担当者様まで。その他の生協の方は、群馬県生協連（電話027-234-2376）へ。（2月10日頃まで）
* ZOOM接続の環境は、参加者がご用意ください。



運営委員会学習会を開催

8月4日(水)

女性協議会の活動のあり方等について意見交換しました

8月4日、「これからの女性協議会の活動のあり方を考える」をテーマとして、運営委員会学習会を開催しました。学習会には助言者として、第27回総会で退任された



運営委員会学習会のようす

女屋さん（前会長・コープぐんま）、甫仮さん（群中医療生協）、第28回総会で退任された木樽さん（コープぐんま）、富永さん（パルスシステム群馬）の4名を迎え、意見交換を行いました。藤原副会長が進行役を務めました。



田中会長（左）女屋前会長（右）

冒頭、田中会長より群馬県警戒度が4に引き上げられたこと、熱中症予防などについてふれたあと、「女性協議会の今後の活動へのヒントとなる良い機会としたい」とあいさつがありました。続いて、助言者を代表して女屋前会長より、『忙しいママに簡単夕食材料』との宣伝を見たが、なぜ夕食を作るのがママなのか。若い人の感覚は違っている」と紹介があり、女性協の活動を絶やさず続けてほしいと期待が述べられました。

その後事務局より問題提起のあと意見交換が進められました。

参加者からは、運営委員会に参加して自分や家族の意識が変わった、もっと多くの人に経験してほしい、子どもの世代は、家事分担を当たり前に行っている、女性協の行事に男性が出づらいつの雰囲気もあった、女性協議会というネーミングも見直すべきでは、もっと参加する生協を増やしてもいいのでは、等の意見が出されました。

閉会にあたり、田中会長から「大変参考になる意見を伺った。課題を整理して今後の活動に役立てていきたい」とあいさつがありました。



藤原副会長

学習会に参加して

皆さんからの、過去・現在の家庭や職場における色々な場面での「ジェンダー平等あるある」のお話に、大きく頷いていました。と、同時に27年前女性協議会を立ち上げた先輩達が目指した社会に、だんだん近づいていると思えるお話も聞くことができました。

世代や個人によりジェンダー平等意識の差は大きいです。まずは我が身を振り返り、家族や友人達の固定観念を、日常生活の中から少しずつ変えてもらうのが私の活動だと再認識しました。

運営委員 中野真由里
(群馬中央医療生協)

今後の協議会活動について、“女性協議会は女性だけの会ではなく、男性も参加しやすい会にしたい”ならば、“協議会の名称も変更したらどうだろう”、“活動中での発言が意識改革になる”など意見が出ました。

話のなかで気になったのが、今の若い夫婦間では家事分担が当たり前だと言う。50代の私達では、考えられない。そう言えば、生協活動でイクメン企画をうたった時、組合員さんからイクメンは死語と指摘を受けた。

時代にあった息子育てをしなくては・と思いました。今からでも遅くないですね。

運営委員 岩崎知恵(コープぐんま)